

人づくりネットワーク

メリーゴーランド

究極の選択！？

あなたはどちらを選びますか？

お問い合わせは、お問い合わせ窓口へどうぞ。



内容：お問い合わせ
主催日：いつのまに
チケット購入方法

メリーゴーランドは、時刻表でございます。

人気でご連絡ください。
欲しい記事がありました。
皆さんにて協力してら
さい。

2012
AUTUMN
Vol. 1.

35

☆今回の「つたえたい」

いじめ・いじめ自殺に関するアピール

今年度に入り、大津で起きたいじめ自殺事件のような、いじめに関するニュースが連日報道されていて大きな社会問題となっております。

毎年夏に行われている不登校に関する全国規模のイベント「登校拒否を考える夏の全国合宿」が今年は北海道で開催されました。(世話人の永井は今回参加しませんでした) このイベントでいじめ・いじめ自殺を考える緊急集会を開いて、「いじめ・いじめ自殺に関するアピール」を採択しました。今回の「つたえたい」はこの採択されたアピールを紹介しますので、ご一読ください。

いじめ・いじめ自殺に関するアピール

私たちは、不登校やフリースクールにかかわる二つの全国団体が協力し、札幌定山渓にて「登校拒否・不登校を考える夏の全国大会 2012 in 北海道」を開催しました。大津や北本のいじめ自殺報道が続く中、大会中にいじめ・いじめ自殺を考える緊急集会をもちました。

大津のいじめ自殺事件は、いじめの陰惨さと学校や教育委員会の対応のずさんさ、無責任さが次々と明るみに出ることになり、世の注目を集めています。中学生は亡くなる前にどんな気持ちだったことでしょう。あまりにもつらい日常が続き、自らの手で自らの命を絶つ以外に、楽になる道がなかったのだと思います。

二度とこのようなことが起きてはなりません。そのためにはどうしたらいいでしょうか。



第一に、いじめといじめ自殺に対して、実態に即した認識が必要だと思思います。7月9日、北海道北本市のいじめ自殺裁判の判決が出ましたが、「原告（遺族父母）の訴えは全て却下」という不当なものでした。判決理由には一つひとつのがいじめは、「いじめと認定できない」また「自殺につながったとはいえない」と述べられています。そしていじめが成立しないのだから、原告がいう学校・市・国を訴える点も却下されました。これはあまりに裁判官が「いじめ」の実態を知らないといえます。一つひとつの行為は、本人が嫌だったり苦痛だったりしたらいじめです。また、いじめが継続的に行われることにより、人格が破壊されるほどダメージを受け、追いつめられることがあります。子どもの最善の利益を守る目的で、当事者の立場にたった子どもの把握、調査、判決が全てのいじめ・いじめ自殺に行われる必要があります。

第二に、この世に生を受けて何年も生きていないというのに、子どもが自らの命を絶つ、ということは、何としても防がねばなりません。その為に私たちは、長い経験から子どもたちに「いじめから逃げなさい」と伝える必要があると考えます。日本社会では86年の鹿川君事件から四半世紀経つというのに、同じことの繰り返しで、いじめ自殺を防ぐことが出来ていません。どんなことがあっても学校は行くべきところとされ、行かないのはよくないとされてきたことが、影響を与えています。不登校はあってはならない、学校復帰せよ、という施策もまた事件の片棒をかついでいるといえるでしょう。いじめがあっても、子どもは学校へ行くしかない、逃げることが許されない、親や社会がその状況をつくってきたことに思いを馳せていただきたいのです。学校は命を懸けて行くところではありません。

私たちは、とうとう学校へ行けなくなった人、もう行かないと心で思った人、学校ではなくフリースクールや家庭で育ってきたという人たちが、「それでよかった」と本音で言っているのを聞きますし、「あのまま行き続けていたら、今生きていたただろう」という話も聞きます。そうしてやっと安心でき、幸せな人生を歩んでいる人もたくさんいます。

子どもにとって、学校教育は義務ではありません。権利です。そして子どもの権利条約が定められているように、休む権利もあります。学校以外にも多様な場があることを含め、「いじめから逃げていい」「もう行かなくてよい」と知らせるべきでしょう。そして早急に学校教育一本しかない仕組みを変え、学校以外の場でも安心して成長していくよう制度を整えるべきだと考えます。

第三に、いじめる側の問題に腰をすえて取り組むことが必要です。取り締まりに強化したり、「絶対許さない」といえば解決するというふうには思えません。子ども達は、なぜ人をいじめるのか。その背景にあるもの、国連子どもの権利委員会の勧告にもあったように、高度に競争的な教育の中で、抱え込んでいるストレスや不全感、満たされない心、存在を大切にされないできた経緯を一人ひとり把握する必要があります。子ども達は学校でも苦しい、家庭や社会も苦しい状況の中で、歪んだ面白さを見つけている、あるいは発散していると感じます。それらは、SOSでもあり、上から押し付ける教育ではなく、一人ひとりが大切にされていると感じる教育に変わるべきを訴えていると思います。これだけの精神的荒廃をもたらしている国の教育の在り方も、子どものそばにいる大人達も、子どもとの関係の見直しを迫られています。

子ども達の命がけのサインに応え、これらの課題に、真剣に今すぐ取り組むことを訴えます。

子どものみなさんに訴えます。いじめを受けていると感じたら学校を休んで下さい。親や教師はそれを受け止めて下さい。

2012年7月28日

登校拒否・不登校を考える夏の全国大会2012 in 北海道
このアピールに関する問い合わせ先

NPO 法人登校拒否・不登校を考える全国ネットワーク

電話：03-3906-5614

メールアドレス：info@futoko-net.org

NPO法人フリースクール全国ネットワーク

電話：03-5924-0525

メールアドレス：info@freeschoolnetwork.jp



9月22日 自称「ひきこもり名人」
勝山実さんの講演会に行ってきました。

世話人の私が勝山さんを初めて知ったのは昨年夏に高知で行われた「登校拒否を考える夏の全国合宿」でした。ご自身の経験をユニークな話で観客を楽しませたことが印象に残り、著書である「安心ひきこもりライフ」の本も購入しました。

今回、愛知県豊田市で行われたこの講演会には、ひきこもり当事者の方も大勢来ていました。私も渥美半島から2時間半かけてやってきたのですが、遠いところからは何と和歌山県、長野県飯田市からやってきた人もいて驚きました。

勝山さんは、高校2年生の途中から不登校になり、高校3年で中退した後そのままひきこもり生活に入りました。ご自身の様々な体験をもとに「ひきこもりカレンダー」、「安心ひきこもりライフ」を執筆し本を出版してきました。また、ご自身のブログ「鳴かず飛ばず働くかず」もあります。

「安心ひきこもりライフ」 太田出版発行 定価1400円+消費税

勝山実さんブログ 「鳴かず飛ばず働く」 <http://hikilife.com>

勝山さんの講演会

9月23日中日新聞朝刊に

掲載されました

自身の引きこもり体験をつづった「安心ひ者で、「引きこもり名



「引き」もり生活の実態を語る勝山さん＝豊田市のとよた市民活動センターで講演会が二十二日、豊

田市のとよた市民活動センターであり、七十人が参加した。高校時代から授業についていけずに休みがちになり、自宅にこもるようになった勝山さん。現在も講演活動などで外出する以外は、あまり出歩かないという。講演では「登校していじめられるなら、家から出ない方がいい」と持論を披露。「親に甘やかされた人が引きこもるわけではない。自分を肯定して引きこもってほしい」と訴えだ。

主催した不登校の子を持つ親や教師でつくる団体「まちあいしつ」の大村美恵代表は、「いじめ自殺が問題になる今、勝山さんのような生き方もあると知ってほしい」と話した。(川原田喜子)

イベント情報

シンポジウム

子どもが学校に行かなくなったとき



日時：10月28日（日）13:30～16:30

場所：電気文化会館5階イベントホール（名古屋市 地下鉄伏見駅下車徒歩2分）

内容：1部 講演「居場所のちから、学びのかたち」

講師：西野博之さん 13:30～14:30

2部 不登校体験者の話を聞く 14:45～16:30

参加費：運営協力費として1000円（学びネットワーク会員は800円）

参加申し込み：10月22日（月）までにFAXまたはEメールにて

主催：不登校学びネットワーク

お問い合わせ・参加申込先：TEL/FAX 052-705-4038（辰巳）

090-1723-6840（福山）

Eメール info@fm-net.sakura.ne.jp

いじめ～自分を生かすには～

日時：11月18日（日）14:00～16:00

場所：豊橋総合福祉センター あいトピア（豊橋市前畠町、豊橋駅から市内電車前畠または東田坂上下車徒歩5分）

内容：「いじめから立ち直った」体験談、「心のとらえ方」講演会

参加費：無料 主催：「コロヒラット」を知ろう会

お問い合わせ先：TEL/FAX 0532-63-0123（太田）





傾聴ボランティア講演会

「語ること」と「聴くこと」の意味 2012年度 第二回

日時：12月2日（日）13：30～16：30

場所：豊橋市民センター カリオンビル6階（豊橋駅下車徒歩10分）

参加費：500円（資料代など） 定員：50名 対象：どなたでも

内容：前半 「語り」 藤岡 勇樹さん（デュシェンヌ型進行性筋ジストロフィー患者）～パラリンピック競技「ボッチャへの挑戦」～
後半 ♪こころのケアコンサート♪

濱島 秀行さん（音楽療法士・ヴァイオリニスト）

主催：ボランティアグループ“ふれあい”&ボランティア“みさと”

お問い合わせ・参加申込先：TEL/FAX 0532-46-3267（錆本）

チキンハートだヨ！全員集合

日時：平成25年1月12日（土）13：00～17：00（12：30開演）

場所：豊橋市民文化会館 大ホール（豊鉄バス台町バス停下車徒歩3分）

参加費チケット：前売 2000円 当日 2500円

高校生以下 前売 1000円 当日 1500円

内容：心の病と向き合ったチキンハートのトーク&ライブ

主催：NPO法人福祉住環境地域センター、日本チキンハート協会

チケット問い合わせ先：TEL 0532-52-4315

Eメール chicken@wacnet.jp



メリーゴーランドでは、読者の皆様方が企画するイベントなどのお知らせを随時載せています。皆様に紹介したいイベント・企画などがありましたら、世話人までご連絡ください。また、体験談やグループ、居場所の紹介などを載せて欲しい記事がありましたら、こちらも是非ご連絡ください。この通信は読者の皆さんのご協力で作られていますので何かありましたら遠慮なく申し出てください。

情報をお寄せください

この通信は、4・7・10・1月に発行します。伝えたい体験談や、団体・グループなどの活動紹介、イベント開催のお知らせ等がありましたら、世話人まで連絡ください。

ご支援・ご協力をお願いします

この通信作成および活動は皆様方の寄付によって賄われております。年間一口500円以上の活動協力費を直接世話人に渡すかもしくは下記の郵便振込口座に入金してください。また未使用切手500円以上相当分、書き損じはがきや使わなかった年賀はがき、リサイクルバザーに出品する物品等も受け付けております。

通信一部売りは100円の活動協力費になりますのでよろしくお願ひします。

編集後記

このたび実家の母屋を新築いたしました。家の整理や引越し、雑用など何かと落ち着かない日々が続き毎日大変でした。今は少し落ち着いてきましたがまだまだやることはいろいろあって以前のように外出することが出来なくなってしましました。でも、やはり新しい家で過ごすのは快適です。このまましばらくは引きこもっているのかも？（笑）そういうわけにはいきませんね。私が実際に住んでいるところは離れの中古だし相変わらずの貧乏生活ですが、それでも生きていることは幸せなことですね。これからも困難を乗り越えて生きていきたいです。（永井和子）

「人と人とをつなぐ情報機関紙 人づくりネットワーク メリーゴーランド」
通巻第35号(年4回発行)

発行■人づくりネットワーク メリーゴーランド
世話人■永井 和子 連絡先■090-1724-6948 (ソフトバンク)

Eメール■kazun-1976@tees.jp

☆ 活動協力費の郵便振込先

◎香港社會研究年刊第2期 0-95714

郵便振替口座 00880-0-95714

加入者名 「人づくりネットワーク メリーヨーフント」

(お一人様何口でも構いません。あなたの気持ち次第です)